

# ともづな

www.masaru-k.net

## 第37号

発行 自由民主党 横浜市議員団

編集 黒川まさる 政務調査事務所

045-781-9580

## 黒川まさる君の議員生活10周年と 最優秀マニフェスト賞受賞を祝う集い

2017年6月28日、関内のロイヤルホールヨコハマに於いて『黒川まさるくんの議員生活10周年と最優秀マニフェスト賞受賞を祝う集い』が盛大に開催されました。

地元金沢区の名士のみなさん、横浜青年会議所の歴代理事長、政財界やスポーツ界などから80人もの多くの友人・知人のみなさんが発起人となり、500名近いお客様がお祝いに集まりました。

第一部は3階のセレナーデの間で、早稲田大学大学院名誉教授の北川正恭先生による『日本最大の政令市・横浜市のミッション』と題した講演でした。「黒川君が横浜市会で取り組んできた議会改革は、マニフェストで約束した議員提案による条例を次々と成立させ、議員の質を高め、市長や行政執行部の議会に対する意識を改革することに成功し、全国各地の議会が目標にしている。」と熱く語ってくれました。50分間の講演に続いて、黒川まさるさんと北川名誉教授が対談を行い、



# ありがとうございました

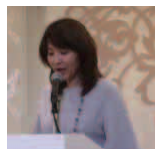


林文子市長や川本守彦氏をはじめ横浜の政財界の多くのみなさんから温かい祝福の言葉がありました

前年のマニフェスト大賞の選考の際に審査委員から評価された点などが披露されました。

第二部は2階のヴェルサイユの間に会場を移しての祝賀会です。日本青年会議所元副会頭の竹村光史さんの開会挨拶に始まり、横浜市港運協会の藤木会長や林市長、松本純国務大

臣夫人、島村大参議院議員をはじめとする多くの政治家からもあいさつがありました。黒川まさるさんは「10年間やりたいうことをやって大きな成果が上げられたのは、多くのみなさんとの出会いとご支援があったから。これからも共に走り続けます。」と力強く語りました。



第一部は司会の板橋由紀さん、謝辞の斎藤智範さんから横浜JC歴代理事長やYAPPA金沢の石川代表など若い仲間たちが企画・実現してくれました



# 毎日新聞社が発行している『毎日フォーラム・日本の選択』に黒川まさるさんが寄稿した提言が「議員提案」として掲載されました



黒川勝  
横浜市長

議  
員  
提  
案

今年5月の横浜市会定例会議で、議員活動10年の表彰をいただきました。この10年間は、私にとっては濃密で充実した年月でした。

初当選の2年前に横浜青年会議所の理事長として提案した「横浜型地域貢献企業認定制度」は、地域に根差して社会に貢献する企業を横浜市が認定する仕組みです。初当選後もこの事業を応援し、総合評価型入札の加算評価や低利融資、認定企業間の交流などが進み、今では500社を超える認定企業

くろかわ・まさるの経歴。1965年生まれ。一經年07党二方表大ど3。大制総プ年事議。ル進同ス長現。成会ツツて会年派フ議や賞を期

が自信と誇りを持って地域社会に貢献しながら仕事をしています。

3人の同僚議員と作成した「横浜市中小企業振興基本条例」は7年前の施行以来、毎年全ての部局から中小企業振興策に関する報告書が秋の議会に提出され、それを検証・進化させることで横浜市の中小企業政策は飛躍的に進化しました。横浜市が発注する仕事は横浜市内の事業者が請け、悪徳事業者の排除や市内企業の育成に貢献しています。

この条例で、議員提案による条例制定は議員が政策を実現する有効な武器だと分かり、私が作成責任を務めた横浜自民党として初のローカルマニフェスト「責任と約束」では、議員提案による8本の条例の制定を掲げ、昨年ついに8本目の狭隘(きょうあい)道路解消条例も成立しました。この条例制定マニフェストの取り組みは全国的にも評価され、「マニフェス

## 地方創生の時代には政策を発信する議会が不可欠

ト大賞・グランプリ」を3年前に受賞しました。

先日の都議選の「都民ファーストの会」政策パンフレットには「14本の議員提案条例制定」が書かれ、当時の横浜自民党のマニフェストに体裁も似ており、私たちが進めてきた議会改革が全国に広がりつつあることを実感しました。

横浜の議会はこの10年間で議員の意識が変わり、今の横浜に必要な政策や条例を議会が発信し、行政がそれに則した政策を実行するよう大きく進化しました。現在、横浜市長が進めている「横浜中期4カ年計画」には、議会から発信された条例が全て盛り込まれ、条例に基づいた政策が次々に打ち出され、実現しています。

私は初当選以来「議員改革」をマニフェストの柱として掲げていますが、この10年間で地域貢献の発想や議員提案条例は、当たり前

のように議論されるようになりました。地域の声を聴き、それを政策として発信・実現していくのは行政職員ではなく議員の仕事です。これまでも実現できた政策や条例は積極的に発信し、街頭遊説、印刷物、SNSなど、あらゆる手法で市民に伝える努力を重ねています。

昨年は個人としては全国で初めてマニフェスト大賞議会部門・最優秀マニフェスト賞を受賞することができました。

私たちが横浜で実践してきた政策実現の手法は、決して特別なことではなく、安定した議会と市長(行政)との成熟した切磋琢磨があれば必ず実現できます。地方創生の時代には地方から政策発信し続ける議会が不可欠です。横浜の取り組みを多くの議会でも実践してもらえれば地方から日本を創生させることができると思います。

『タウンニュース』や『日経グローバル』『月刊ガバナンス』などに、政治家としての考えや議会改革の取り組み、市政報告などを何度も寄稿している黒川まさるさんですが、『毎日フォーラム・日本の選択』という毎日新聞社が発行しているフリーペーパーから依頼を受けて『地方創生の時代には政策を発信する議会が不可欠』と題して、議員生活10年間の歩みと、議会改革の取り組みが掲載されました。

「横浜での取り組みは決して特別なことではなく、全国各地の議会でも出来るはず。改革の気概を持った議員のみならず、あきらめずに頑張り続ければ必ず実現出来るのでチャレンジして欲しいと思います。そこから地方創生が始まるのです。」と、黒川まさるさんは訴えます。

市民に開かれた、わかりやすい政治を目指す、黒川まさる横浜市民議員に対する期待、要望、激励、メッセージなどをお寄せください。

返信FAX 045-786-4310 または [masaru-k.net@hb.tp1.jp](mailto:masaru-k.net@hb.tp1.jp)

お名前・ご連絡先

ご意見をいただいた方にはお返事をさせていただきます。(住所・メールアドレス・FAX番号何でも結構です。)